

令和8年度学校自己評価システムシート (県立浦和第一女子高等学校)

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校
--------	--

重点目標	1 グローバルな視点で学びを支援し、自ら進路を切り拓く一女生を育成する。 2 部活動や学校行事などを通して、何事にも主体的に取り組む一女生を育成する。 3 外部連携を一層推進するとともに、一女の教育活動を積極的に発信する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	名
学校関係者	名
生徒	名
事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		実 施 日 令 和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	減	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>学習指導について、教員の教材研究や授業改善により成果を上げている。生徒が高い志を維持し学習できるよう、指導力の向上や教材開発を推進する必要がある。</p> <p>進路指導について、生徒の進路希望の実現に成果を上げている。生徒がより幅広い視点で考え、自分の意志で進路を選択できるよう、チームでのより高い水準の進路指導を進めるとともに、本校の進路指導についての保護者の理解と協力がより促進されるよう、取り組む必要がある。</p> <p>国際交流、探究活動において、多くの取組を実施している。生徒が自ら問いを立て解決する力がより育まれるよう、取組における工夫や一層の周知が必要である。</p>	①学びの転換を促し、主体的であきらめない姿勢を育む指導を行う。	a 授業を中心とした学習習慣の確立を目指す。教科指導を充実させる。 b 予習→授業→復習の黄金サイクルを軸とした学習習慣の確立を図る取組を行う。 c 授業等における一人一台端末の効果的な活用を全校で共有する。	ア 授業において、生徒の意識啓発や、課題の精選・授業展開を工夫した教員100% イ 自主学習定着のための取組の実施状況 ウ 一人一台端末を活用した授業の工夫を行った教員100% エ 教科指導に関するアンケート項目の肯定的な回答9割以上				
		②高い志を育み進路実現する進路指導に全校を挙げて取り組む。	a 進路指導の在り方を全職員で共有する取組を実施する。 b 生徒が共に学び合える学習環境を検討・構築する。 c 麗風セミナー、OG協力事業等の生徒・保護者の将来を見据えた高い志を育むための取組を行う。	ア 進路指導の在り方等共有の取組実施状況 イ 生徒が共に学ぶ学習環境の設定状況 ウ 生徒に高い志を育ませる取組の状況 エ 共通テスト6教科受験率 オ 保護者への啓発等の実施状況				
		③本校の目指す人材育成に繋がる探究的な学びを提供する。	a 生徒の主体性や課題解決型の知識・思考力を伸長する教育活動を行う。 b SSH活動を中心とするSTEAM教育を展開する。 c 海外派遣・受入事業を実施する。 d 外部機関と連携した取組のより一層の充実を図る。	ア 総合的な探究の時間の実施状況 イ 国際交流の実施状況 ウ SSHに係るアンケート項目の肯定的な回答9割以上 エ 国際交流等に関するアンケート項目の肯定的な回答9割以上 オ 外部機関との連携状況				
2	<p>部活動や学校行事等は、生徒が主体の自発的な取組と教員の熱心な指導により充実している。生徒が学業と両立しながら持続的に活動できる環境の整備と、将来にわたり持続可能な部活動等の運営の在り方について検討が必要である。</p> <p>校内の教育相談体制は整っており、外部連携も含めた組織的な教育相談体制が構築できている。引き続き、個々の事情に応じた対応ができるよう取り組む必要がある。</p>	①円滑な運営・実施のため持続可能な体制を整備する。	a 部活動及び学校行事等において、生徒が主体的に取り組めるよう支援を行う。 b 社会の変化を踏まえ、持続可能な部活動運営の在り方について検討する。	ア 部活動・学校行事に関するアンケート項目の肯定的回答9割以上 イ 部活動運営の在り方についての検討状況 ウ 学校行事の実施状況				
		②組織的な教育相談体制を機能的に運営する。	a スクールカウンセラーとの連携を組織的に行う。 b 支援等が必要な生徒に係る情報共有及び対応を、適切な組織で迅速に行う。	ア スクールカウンセラーの活用状況 イ 支援を必要とする生徒の情報の組織的共有状況				
3	<p>保護者向け、外部向けの情報発信は一定の成果を上げている。本校の魅力、教育活動、進路指導方針等とその効果について知っていたくための広報活動の工夫が必要である。</p>	①ニーズを感知し、有益で質の高い情報を発信する。	a 学校説明会において、中学生・保護者へ本校の魅力を発信する。 b 学校HP・インスタグラムで、生徒の活躍や日常の様子を発信する。 c 一斉メールによる保護者への適切な情報発信を行う。	ア 学校説明会の実施状況 イ HPのアクセス回数70万回以上、更新回数300回以上、インスタグラムのフォロワー数3000以上 ウ 一斉メールを用いた情報発信の状況				
		②外部との連携の向上を図る。	a 教育関係者対象の学校説明会の実施や外部主催の学校説明会等に参加し、本校の魅力丁寧に伝える。 b 地域や外部機関との連携を精選・重点化していく。	ア 教育関係者対象説明会の実施状況 イ 外部機関と連携した広報の実施状況 ウ 外部機関と連携した行事の実施状況				